

平成22年度  
第3回 羽黒地域審議会  
会議録（概要）

期 日 ： 平成22年11月17日（水）

場 所 ： 羽黒コミュニティセンター集会室

## 平成22年度 第3回 羽黒地域審議会会議録（概要）

○日 時 平成22年11月17日（水）14時00分～

○場 所 羽黒コミュニティセンター 集会室

○出席委員（順不同）

林 茂生、太谷 眞一、土岐 智子、金野 信勇、加藤健次郎、寒河江健二、  
島津 慈道、斎藤 一、山田 勝実、山口 平、本間 信一、天野 俊秀、  
庄司 祐子、阿部 良一、星野 博、梅津 久美

○欠席委員

岡部 紘、山田 鉄哉、富樫 篤、佐藤 繁明

○市出席者

羽黒庁舎 支所長 真田 昭良、次長兼総務課長 佐藤 茂  
市民福祉課長 榎本 光男、健康福祉主幹 田村 廣実、産業課長 加藤 耕、  
観光商工室長 五十嵐 満、建設環境課長 丸山 武、教育課長 五十嵐眞一、  
総務課主査 佐藤 潤到、総務課係長 観世 安司、総務課主事 成沢あかね、  
総務課主事 長瀬 陽彦、総務課主事 茂木 政信

本 所 企画部長 小林 貢、市民生活課主幹 富樫 栄一、企画調整課係長 佐藤 豊、  
地域活性化推進室係長 粕谷 一郎、市民生活課係長 清野 健

○次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

（1）地域コミュニティ実態調査の実施状況と課題について

4 協 議

（1）鶴岡市総合計画実施計画の策定について

（2）協議テーマ『観光地羽黒の更なるステップアップを目指して』について

（3）その他

5 閉 会

### 【会議の概要】

1 開 会 （14時00分） 佐藤次長

2 あいさつ 寒河江会長

3 報 告

（1）地域コミュニティ実態調査の実施状況と課題について

市民生活課富樫主幹が地域コミュニティ実態調査の実施状況と課題について報告  
質疑等意見なし

## 4 協 議

### (1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

鶴岡市総合計画実施計画の策定について企画調整課佐藤係長が策定の経緯と主な内容について説明した。

#### (質疑応答)

(天野 俊秀委員)

森林文化都市構想の推進というところで、スギ間伐材などの木質ペレットの普及促進など森林バイオマスの利用拡大、いわゆるペレットストーブなど木質資源を使おうということですが、実際にはペレットストーブはそんなに普及していない気がします。私なりの意見ですが、なぜペレットストーブに限るのかということなんです。ペレットストーブというのは、電気がなければ動かないし、使っている人に聞くとよく故障するらしい。また、ペレットストーブは、ペレットしか燃やせない。わざわざエネルギーを使って木材をペレットにし、電気を使って燃やさなければならないのか。逆に言えば、もっと薪ストーブ等を推進していけば、さらに木質、バイオマスの普及に繋がるのではないかと。薪ストーブは我が家とか私たちの集落でも非常に多くの世帯が使っていて、薪を割る時間、そういう贅沢な時間を持っている人でなければ使えないもので、買うと灯油より高いというのが薪ストーブなのですが、逆にペレットよりも大きな、直径9センチ位で、長さ30センチ位のもので、新潟で作っているのですが、金山町でも作ったことがあると言っていましたけれども、いわゆる大型のペレットで、薪ストーブに直接くべられるペレットというものもあるわけですが、なぜ、その推進や販売をしないのか。よくペレット、ペレットと言うのは、どうもペレットストーブを売らんがための運動のように聞こえてならない。本来の木材バイオマスの活用であれば、薪や、そういう大型のペレットを推進したほうが良いのではないかと。建築廃材なんかも全部粉にして詰められるわけで、それが、広葉樹の火持ちの良い木と同じ火力を持っていると言われていいますので、ペレットにこだわる必要はなく、自然資源をもっと活用するべきではないかと思っておりますので、枠をはずした意味のある活動を展開してもらえればという気がします。

(企画調整課 佐藤係長)

ただ今ペレット、木質バイオの関係でご意見をいただきましたが、今年度は、緑の分権改革という事業に取り組んでおりまして、その中で木質バイオ、ペレットに限らず、小水力発電や基礎調査等を展開しているところです。今ご指摘ありましたとおり、ペレットにつきましても、いろんな課題を抱えているのだらうと思っておりますので、それらの課題、現状について調査、検討することも無駄ではないと思われまます。先日農業新聞かなにかに出ていたと思うのですが、今ご指摘あったような薪タイプの木質バイオを使った取り組みも始

められているようですので、現在担当課でも考慮しており、来年度以降の検討になるかと思いますが、これらにつきましては、より幅広く、より良いものを求めて、低炭素社会の実現に向けて検討してまいりたいと思っております。

(庄司 祐子委員)

新鶴岡市になって 5 年が経過し、そろそろ本当の意味で人材が見えてきたのではないかと思います。ですから、さらなるステップと書いてありましたけれども、やはり適材適所で、いかに隠れている人材を市のほうで発掘して、そしてボランティアでも良いと思うのですが、そういう方たちの英知を結集してこそ、次の時代があるのではないかと感じています。

(企画調整課 佐藤係長)

合併して 5 年以上経過しておりますし、まさにご指摘のとおりかと思えます。人材活用という部分では、今鶴岡サポーターズという位置づけで、東京、あるいは都市圏に住んでいる方々で、こちらにゆかりのある方々のネットワークを活かしながら、外から支援していただきたいということで、観光大使の任命ですとか、ふるさと鶴岡産業活性化懇談会など、新たな人材を活用していこうという動きもあります。そういった外からの動きも含めまして、人材育成なり人材活用を進めてまいりたいと思っております。

(司会：寒河江会長)

今日の総合計画の協議は、各旧町村の審議会を回って、意見などを聞いているのだと思えますし、それを積み上げ、市で取り上げて、その地域の活力になるような事業を進めるということだと思っておりますが、そのへんはどうか。

(企画調整課 佐藤係長))

資料の 2 ページを見ていただきたいのですが、こちらに実施計画の推進体制を記載しております。中央に総合計画審議会がありまして、この中には本審議会と企画専門委員会が位置づけられています。そして、右側に各地域審議会と鶴岡まちづくり塾、左のほうが幹事会等庁内の検討機関がある、といった形で進めておりまして、ご意見、ご提案につきましては、資料などを整理し、企画専門委員会、本審議会に反映させながら検討を進めてまいりたいと思っております。

## (2) 協議テーマ『観光地羽黒の更なるステップアップを目指して』について

佐藤次長が、協議テーマについてこれまで出された意見を紹介し、5 つの項目の中で意見が少ないものについて、重点的に協議していただきたい旨説明した。

## (質疑応答)

(天野 俊秀委員)

今拝見しました「庄内の満喫ガイド」、このパンフレットにはいろんなものが載っているのですが、羽黒地域を重点的に見た場合に、明らかに欠けているものがあります。“見る・遊ぶ・食べる・泊まる”、その“泊まる”というのが、羽黒地域にはほとんどない。ないといったら失礼ですね。国民休暇村と宿坊さんもあるわけですが。宿泊は、湯野浜温泉、あつみ温泉、湯田川温泉。一回そちらに行くともう戻ってこないというのが多いのではないのでしょうか。今、山形、庄内というのが、日本の原風景のような景色と建物、暮らしというのが見直されていますが、新たに、例えば大きな宿泊施設を建てようなんていっても財源がないわけです。そこで伺いたいのですが、鶴岡市の家中新町にある民家を改造した宿泊を申し込める建物がありますよね。あれの利用度は、どれぐらいなのでしょう。例えば、ここの羽黒地域でゆっくり滞在してもらって、あちこちを一つの拠点から見てまわる。短期のそういう滞在型の観光を考えたときに、湯田川温泉やあつみ温泉に行ったら、そこから通うというのはなかなか難しいわけで、この庄内の例えば昔風な家の空き家を少し借り受けて改造して、短期で貸し出せるような、そんなことができないだろうか。ちょっと冒険的な意見を申し上げて失礼なのですが、そういうホームステイでもない、田舎風、田舎暮らしのブームが都会にはあるので、そういう田舎暮らしの体験が2、3日借りてできる、そういう可能性はないのかなということと、あの家中新町の活用度について、もしわかれば伺いたいのですが。

(佐藤次長)

家中新町の旅館としての活用は、たぶん「皓鶴亭」のことだと思いますけども、確かあの施設は最初に開館したときは、東京の江戸川区、友好都市の盟約を締結しているわけですが、そこからモニターというかたちで、何名かに実際に宿泊をしていただいたということがございます。ただ、それ以降何年か経っておりますけれども、お客さんが引きも切らないというような状態ではないと思っておりますが、少し確認してみたいと思います。

(五十嵐室長)

空き家の活用という点につきましては、建設サイドで最近、各集落の区長さんに「空き家調査」をお願いしている状況かと思っております。そのねらいの一つは、危険家屋であればそれは取り壊すといった判断をしなければならぬということですし、また、宿泊施設などに活用ができるものがあるのか、といったことも含めて、最近行っているようです。天野委員が言われましたように、空き家を宿泊滞在型の施設に利用するという点につきましては、今後そういうものも検討していく必要があるかと思っております。

(齋藤副会長)

実は、天野さんがおっしゃるとおり、ここ数年、リタイアした夫婦が長い時間を使ってその地域に留まるという傾向が結構出てきています。JTBの東北本部におられた永田さんという方が今千葉にいらっしゃって、「スローステイ倶楽部」という、そういう客層をねらって、民家を活用したり、宿坊を活用したり、そういうものを進めようとしていて、私どもにも声をかけられておりまして、具体的にはまだ行動できていませんが、いろんな形で今情報を集めている段階です。本当にこの原風景みたいな地域を長い時間をかけて、ぜひ見ていただきたいと思ひますし、そういう観光の方向性を定めていくのも、一つの方法ではないかと思ひます。ただ、おそらくは極端に年々増えるということにはならないと思ひますが、そういった方向を作るのも、観光の一つの方法だと思ひます。

(天野 俊秀委員)

そういう時代の流れと言ひましようか、団塊の世代がリタイアしてという、そういう時期に当たっているのかもしれないが、だいぶ前から温海地区の小国という集落で廃校の小学校を使って、都会からいろんな旅行をしてくる人たちを受け入れて、それを地域で関わっている間に、この地域に魅せられて都会から2、3世帯、そこの地域に引越してきたという話もあります。

活性化という経済的な面と、人的な面も両方考へて、予算もかからないし、面白いのではないかなど。そういうものが、羽黒のパンフレットの宿泊、泊まるというところに、「民家に泊まる」という。ホームステイとか、一般の人が暮らしているところに泊まるというのは、なかなか気兼ねするものですが、家一軒貸しますというのは、非常に気楽に動けるのではないかなど。そして、そういうものが増えてくると、もっとこまめに、こんなポイントがありますよという、歩いて、また自転車でもまれるぐらいの観光スポットというのでも出てくるのではないかなどという気がします。

(佐藤次長)

今の件は、確かにこの団塊の世代の方々が、職場を退職された後に生まれ故郷に戻ってくる、ユーターンとかアイターンとか、そういったかたちでのニーズは確かにあるのだと思ひます。ただ、それを業としてする場合は、旅館業法の規制もあるはずですし、主体となる組織がどうしても必要になってくるのだと思ひますので、どこが主体となってそういうことをやるのか、といったことが課題になってくると思ひます。

(市民生活課 清野係長)

皓鶴亭の利用状況についてのご質問についてですが、本所の関係課のほうに確認しましたので、その状況についてご報告いたします。皓鶴亭の利用状況につきましては、H21年度の実績で、組数で39組、利用者数で延96名、日数では194日。利用者の内訳では、リ

ピーターが **30.8%**、観光目的が **56.4%**、実家の代替というか、今実家はなくなったけれども鶴岡に滞在したいという方の利用が **15%**、このような利用状況となっています。中には、藤沢周平ファンという取りまとめでは **12.8%**、というような状況だそうで、ここ数年の利用状況としては、組数で **40** 組、利用者で **100** 人、日数で **200** 日、というのが、ここ数年のアベレージといった状況であると確認しましたのでご報告いたします。

(本間 信一委員)

観光というのは、そこに滞在して食べて泊まってというのが完結だと思うのです。今までの状況ですと、先ほどから言われているとおり、温泉地に泊まっていたら、人の割には経済効果が薄いのではないかと。これは、今までも課題としてずっと言われてきたわけですし、それを宿泊施設となりますと、休暇村だとか、宿坊だとかしかない。先ほど天野さんが言われたことには、農家民宿みたいな部分もある程度含まれるのかなあと。ゆったりした中で地域を散策するというような場合、農家民宿は非常にぴったりなのではないかと考えます。グリーンツーリズム協議会の主催で、飯豊町の中津川というところに行ってきましたのですが、そこは戸数の **3** 分の **1** ぐらいがダムになってしまっていて、今は過疎化が進んでいるという地域でした。高齢化はだんだん進む、若い方はいない。生活についても、そんなに土地があるわけでもないし、その山の山菜なりで生活しているわけですが、そこでいろいろと考え付いたのが農家民宿だということでした。今 **13** 軒位ですか、一つの組合を作って、受け入れをしているということで、それも年々伸びておまして、今だと **1,000** 人ぐらい来ているということですし、リピーターも多いようです。食も非常に特色があって、東京のレストランで食べたら何万円もするようなものが夕食で出てくるといったように、そういうことが、非常に人気があるということで、自給率 **100%** だなあと感じてきたわけです。そこで採れたものをうまく調理して食べさせると、そういうことでリピーターが増えているというお話しでした。そこで頑張っている、特におばあちゃん方でしたけれども、生き活きとして研究心もあったし、非常に切羽詰った中での、苦肉の策と申しますか、どうしたら生きていけるかと、切実な問題の中で出てきた最後の満塁ホームランみたいな格好ですけれども。羽黒はまだそこまで切羽詰ってはいないかなと思うのですが、こういう会議で一步でも半歩でもどうしたら進めるのかなというようなことも、具体的に知恵を出してやれたらいいなということで、引き合いに出させていただきました。

今まで頑張ってきた方々にはもう一段奮起していただきまして、斎藤副会長も言われたとおり、受け入れ体制をなんとかここで持つことによって、羽黒がもっともっとすばらしいんだということが、本当に伝わるんじゃないかなと思いますので、ぜひ会議の中で市長に提言できる部分を、行政も絡んで進めていければと感じている次第であります。

(土岐 智子委員)

私は、手向で多聞館という旅館を営んでおります。宿坊が **30** 何軒とあるのですけれども、

お客がずーっと上の方から一軒一軒寄ってきたら、もううちは休んでいるとか、今はもうやっていないとか、という理由で**4、5軒**も断られて、やっと辿り着いたのがうちだというのが、往々にあるんです。宿坊が**30**何軒もあるのですから、そういう人たちが団結して、一人でも二人でも泊めるようにすれば、羽黒の観光に少しでも活かしていけるのではないかと思うんですけれども。なかなか宿坊は、シーズンの**7、8月**ぐらいは泊めてくれるようなんですけれども、普段は泊められないというのが多いようなんです。その点もう少し協力して観光客を受け入れたらいいんじゃないかと思うんです。ガイドブックなどをみると宿泊施設のところに、宿坊が**30**何軒並んでいる。それで、上から何軒も電話したけども、受け入れるところがなくて、辿り着いたのがうちだというのが往々にしてあるものですから、そのへんちょっと発言させていただきました。

(星野 博委員)

鋭いご指摘、ありがとうございます。今、土岐さんがおっしゃいましたのは、上の方からと言っておりましたので、うちは入らないと思いますけども(笑)。実は、この間も観光協会の成瀬君から話があったのですが、メールなどで各地の方々から「宿坊に泊まるにはどうしたらいいのか」とか、「一人や二人でも泊められるのか」とか、または「歴史的なことも学べるのか」だとか、いろんな問合せがくるんだそうです。それに対して、受け入れ体制はどうしたらいいのかとなった場合、一軒一軒の宿坊に聞いてみないとわからないということなんですけども、以前から、一般の観光客を泊められないのかという話しは何回もありました。宿坊というのは檀家があって、檀家の方々をメインに夏場に集中して泊めるということになっているわけなんですけども、その時期をはずれますと、女性の方々がくたびれるわけです。例えば、**5人**単位だとか、ギリギリ**3、4人**単位だと思うんですけど、わざわざ風呂を沸かしてだとか、食材を集めてだとか、これはちょっと大変だということで、勝手に男衆が今夜泊めますよと話しをすると、怒られるわけなんです。そういうこともありまして、先ほどから宿坊がどうのこうのというお話もありましたが、シーズン中でしたら協力できるところは手を挙げましょうよ、という体制を作りつつあるとは思いますが、今の季節になると寒いしカギもかかりませんよ、夏場しか対応できない部屋ですよ、とか、そういう断り方をしている坊の方々が多いようです。かなり多聞館さんにもご迷惑をかけているようなんですけども、そここのところを我々ももう一度、一緒になって将来的なものを精査しながら協力していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(土岐 智子委員)

それで、宿坊に行った場合、受け入れられないということで、よくうちを紹介してもらっています。ありがたいことに。一人でも二人でも、うちは年中無休ですので、どうぞ皆さんの方からもよろしくをお願いします。

観光協会の方にもお願いしたいのですが、もしそのように宿坊の方で受け入れでき



ないのであれば、メールやHPなんかでも「この時期はどこどこで受け入れができますよ」とか、そういうものを親切に紹介した方がいいのではないかと思うんです。やっぱり、何軒も聞いてダメだ、やっと見つけたというのではなくて、そのHPを見れば、ここは今の時期受け入れてくれるんだなあとか、一人でも大丈夫なんだあとか、そういうのが観光協会のHPかと思いますのでよろしくお願いします。

(星野 博委員)

すいません、言葉少なくて。今後、HPも作る予定でして、その中には、「冬場でも泊られますよ」とか、そういう坊は入れて、泊まれないところははずすとといった方向性をとっていかうと思っております。みんながみんな同じような状況ではございませんので、こういうパンフレットも見直していかうかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(庄司 祐子委員)

グリーンツーリズムの話になっておりますので、私も一言。今、本当に多聞館の土岐さんのお話しは、すごく公共性のあるお話しだと思っております。そういうことは地元の人には意外と気付かないことですが、実は非常に大事な視点ではないかという感じがします。私自身もそうだし、都会から来られる時に、お泊りはどちらですかというお話しになったとき、最近では鶴岡の安いホテルに泊まる方が結構多いと思います。そのかわり他のところを少しリッチにして、例えばタクシーでまわるとか、なされるわけですけども、やはりよほど親しい人でないと、私たちも無理を言って宿坊にお願いできないのですが、宿坊に泊まった個人客の友達は非常に満足されます。ここが良かった、あそこが良かったと、いっぱい良いことを言って喜んでくださいます。

先ほどのお話しをうかがっていると、現実的に宿坊というのはある種の目的があってできている施設なわけで、普通の旅館とは当然違うというふうに誰しも思っているわけなので、他にも旅館や国民休暇村など泊まる場所があるんだと、案内できるようにすればいいのでは。

映画村から頑張ってアクセス道路を作ったとすると、仮に映画村まですごくどーんと言ったら、どーんと帰っちゃうじゃないですか。手向のバイパスがそうだったみたいに。ですから、果たしてその立派なハードを作ることなのか、それより、もうちょっと情報のきめ細かさとか、この間お話しさせていただいたんですけども、映画村まで行く途中自分一人で運転してたんですね、二回ぐらい。本当に怖くなってしまおうというか、ここで良いんだろうかって、羽黒に住みながらも、だいたい地形がわかりながらも、怖くなるということは、他の人なら途中で帰っちゃうと思うんです。そういう意味では、むしろサインというものをきちっとすることで安心してもらうだとか、アクセス道を広くすることも良いことだとは思いますが、そこで予算が終わっちゃったのではなくて、もうちょっと

大事なところというものにもお金をかけるべきではないかなと思います。

それから、少し話しを戻しますけども、グリーンツーリズムで農家民宿ということになりますと、非常に県の方でも規制を緩めたようなので、例えば自分の家があって、使っていない離れがあるとか、そういう場合に、一日一組限定だと、非常にとりやすくなったんですね。ですから、そういうようなことも普及していただいたりすると、もっと教育旅行も含めて、子どもプロジェクトも含めて、羽黒に誘致できると思うんです。やっぱり羽黒にたくさんお客さまが来られても、あまりメリットがないっていう今までのことをこれからもずーっと続けていくのだと、自然と先細りになるわけですから、やはり何らかの魅力で、今回はこのことで来たんだけど次回はあんなこともありますとか、その中に映画村というすばらしい財産をいただいたと思うので、プラスして、ここには書いてない部分でも松ヶ岡あり、今井美術館あり、すばらしいところは山ほどあるので、そういうところも上手に加えながら、観光ということで羽黒をもっと良くできると思うし、それにともなって雇用の創出であるとか、地域の産物が売れるとか、そういうところまで上手にやっていかなければならないかなと思っております。

(五十嵐室長)

大変、貴重なご意見ありがとうございます。今回の皆さんからのご意見につきましては、今後活かしていきたいと思っております。10月末から11月5日の期間で、観光に携わる専門の皆さんに、専門的な見地から観光施設への誘導に関してのご意見をお聞かせいただいていることもございますので、今後検討させていただければと思っております。

(太谷 眞一委員)

県道月山公園線の拡幅についてですが、前の会議のときにそういう質問がでまして、道路に砂利を敷いて少し整備するというので、私も月山に4、5回登ったんですけども、若干4、5箇所ぐらいのところには砂利が敷いてあったのですが、その砂利を敷いたところがちょうど濡れているところであって、なかなか寄るといって人が少なかったように思います。それで、私が思うんですけども、やはりそういうのも良いのですが、山側のほうを拡幅できないのかなと、交差場所を作ることができないかと思っています。あの砂利を敷くのも多少はお金がかかっていることなんですけども、もう少し大幅なお金がどこからか出てこないかなと思っています。やはり、バスも大きくなって、交差するところがなかなかなくて、登っている人が大変苦勞しているのを今年何回も見ましたので、砂利を敷くのも結構ですが、山側のほうを拡幅していただけないかと思っておりますがいかがでしょうか。

(五十嵐室長)

月山公園線の整備につきましては、前回も取り組み状況について説明させていただきました。路肩のぬかるみになっているところに、大型バスのタイヤの後が危険な状態です

ておりまして、その現場を庄内総合支庁と市の土木の担当、羽黒庁舎の担当が一緒になって、現地を見たところです。すぐ拡幅という予算は、今年度はないということで、今回は、すぐぬかるむところ、あるいは交差するのに大変なところに、4箇所だけですが、県の方から砂利を敷いてもらったという経過がございます。それで、それぞれ9箇所ほどいろいろ改善要望しているところがありますが、その部分については一つ一つ県の担当者から見ていただきまして、ぜひとも来年23年度の予算で整備していただきたいとの要望はしているところです。どれだけ予算がつくかわかりませんが、県の方も実際に見て、やらなければということで砂利を敷いてくれましたので、一歩進んだのかなと思っています。なお、全体の整備としては、出羽三山地区観光開発促進既成同盟会でも要望していきたいと思っておりますし、来年度の県の予算にぜひ計上してくださいという活動をしているところであります。

(金野 信勇委員)

羽黒町で観光資源というと、一つは大きな資源としては出羽三山、羽黒山かと。その出羽三山、羽黒山をどうするかということで考えたとき、やはり宿坊の問題、道路の問題、神社の問題、いろいろあると思いますが、そういったことを、ここで取り上げるのであれば、はっきりとした形で提言することが必要だと思います。

それで、一つとしては羽黒山のお祭り。八朔、あるいは秋の峰、神社としてはいろんなかたちで宣伝していると思うわけですが、これを観光という形で、鶴岡市、あるいは羽黒庁舎で、どうしたらもっと人が集まるかと。そうした場合に宿舎をどうしようとか、あるいは売り物は、山の売り物だけではなくて、名産品と一緒にどうするとか、を考えてくっつけていくようなことはできないかと。例えば、岩手の裸祭りですか、あれは本当に大宣伝して問題にもなったけれども、それで日本中で有名になった。そのような形で、羽黒の八朔祭りなんかも、町をあげて市をあげて宣伝してもらって、それは三山神社の許可がいるわけですから、それらが一体となってやって、そういうイベントで人を集める、そしてもう一回来てみよう。もう一回石段を登ろうとか。そういうふうにもっていくにはどうしたらいいかということで、祭りと一体となった観光、人集めをぜひやっていただきたいと思っています。それが結構集まるんじゃないかなと、本当にあそこでやっている祭りはすごいと思いますので。それを大々的に、秋田の花火大会や裸祭りみたいに、何かできないか検討することを提案したいと思います。

(林 茂生委員)

今の金野さんの意見、確かに私もそういう形で進めるべきだなと思います。それで、いろいろ私も手向ですから考えてみますと、一生懸命、出羽三山でも年間を通じた行事を宣伝しております。そして、やっぱりお客さんもその時期、結構来ているんです。ただ、思うのは、一応観光に来る人たちが、18年では15万7千人来てますが、21年には15万5

千人ということで、実際上は減っております。それから、目標値は**21万2千**とありますけれども、実際に私も見てみますと、観光客は減っているような感じがしております。そうすると、そこに来る方々は、やっぱり花祭りということだけ考えてみれば、松例祭も同じわけですけど、宿坊にいらっしゃる檀家の方々を中心にして考えてみても、全体的には減っているような気がしております。昔は、確かに大型バスでびっちり乗って**2、3**台で来た時代もありましたけれども、今は大型バスで半分くらいで来ている現状があるようです。それで、宿坊さんも一生懸命、そのお祭り行事をメインにして、お客さんと呼んでいるし、神社のほうもそのお祭りをメインにして呼んでいるようです。では、一般客をいかにしてその他で集めるかと考えていくと、やはりこの時期には宿坊の皆さんも本当に日夜汗を流して自分の家の家業で汗を流しているわけですし、神社の方々もみなその行事の中で汗を流しているようです。それではどうするかと言うと、サブ的な、それを応援する方々を少し募集して、そういう方々を中心にして一般の客たちに内容の説明をしたり、そういうことが必要ではないかなと思います。私も前はボランティアをやっていたのですが、今はボランティアを辞めております。どうしても土曜・日曜にかけて必ず依頼がくるものだから、私もくたびれてしましまして辞めた経過があるんですが、でもその祭り行事については、サブ的な人たちが、その祭り行事を説明してやったり、宣伝してやったりすることが、本当に大事なのかなと思います。そして、それを見ていった人たちが、口コミ情報で「良かったぞ」ということで広がっていけば、これは祭りに参加する人たちが増えるのではと思うんです。

それからもう一つですが、先ほど星野さんのお話しにもありましたけれども、ちょうど宿坊の忙しい時期には、大変そういう事情、私もわかります。それでは、暇な時期に何か対策がないかと思うのですが、みんなの宿坊さんでできるとは思いませんけれども、**2軒か3軒**、特に桜小路の中で**4、5軒**ぐらい。今は**2人、3人**で来る方々は、食事は外でして泊まりだけなんとかという感じで、来る方も結構いるようですから、今だいたい宿坊で**7,000**円くらいから**8,000**円くらいだと思いますけれども、宿泊くらいは提供して、食事は地元の食事処でなんとかするといった、これだけ良い山のもの、海のもの、いろいろあるわけですから、そういった方法も一つではないかなと思っているところです。

(阿部 良一委員)

宿坊さんの話しが先ほどから出ていますが、宿坊というのは昨日今日ではなくて、歴史的な、信仰的な成り立ち等を理解されている上での話しと思って聞いておりましたけれども、私も前まで家業は宿坊でしたのでよくわかります。要は、宿坊さんは夏の間は、お山に来られた方をお迎えして、お山などのご案内をする。それで、冬の時期は、自分の信仰区域を回るといった昔からのシステムになっているわけですね。全国的に宿坊といえば、お寺の近くとか門前町にあるわけで、手向と違って年がら年中人が来るのを待つといった地域もあるかもしれません。雪が降らない場所で、**365**日来られるような場所はあるわけですか

ら。ただ、手向の場合は、こういった豪雪地帯ですから、冬の間に山に来るというのはあまりない話なわけですね。その代わりに、こちらから出向いていくというのが何百年も続いてきた姿で、今も維持運営してくれているのだらうと思っております。そこらへんがベースにあって今のこういう形が成り立っている。だから、小部屋もないし、どっさり講中さんが来て、雑魚寝のような形で過ごしていただく、料金的な話もありますし。なので、なかなか一見さんのお客さんをとるとするのは難しい話だと思います。とにかく、興味や対象にはなっているんだと思いますけれども、やはりそういった内実の上に宿坊があるということをご理解いただきながらも、そのへんでまた特徴を活かすというのを、今から、宿坊さん自体も考えていることだと思いますので、どんどん進めていっていただきたいと思っています。

それと、様々な年間の御祭事があるわけですが、そこに大勢の方々がお出でいただいて、その波及効果的な意味合いとして地域の活性化があるというのは、これはもちろんと思っておりますが、一つは、あまりどっさり来られると困る日も実はあります。これは、月山道もそうですね。だから道路の問題がでるのも然りです。羽黒の上でも、どっさり来られると駐車場はいっぱいになる、道路もいっぱいになると、大迷惑をかけると。これも何日かあります。だから、要は、今は様々な方が様々な思惑のもとに羽黒に来られる。昔は、信者さんをどんと受けて、どんと帰せばよかったという大変荒い仕事だったのかもしれませんが、これが今、ものすごく要求が細分化してきたからだらうと思っておりますが、羽黒の山ですと、駐車場が **1**、**2**、**3** とありますけども、**1** がいっぱいになると **3** に行くわけですね。**3** は離れておりますから、そこから無料バスを庄内交通が出していらっしやいます。簡単に言えば、そういう受け皿だらうと思えますね。月山でも **6** 合目からバスを出すという制度にしていますが、なかなか浸透しておらず、利用は難しいと思えます。

私はこの羽黒町の要の場所というのは、鶴岡から来て様々な道にそって要の場所はあると思えますが、私はビジターセンターのあるところではないかなと思うんです。ちょうど十字路と言いますか、羽黒と月山と、それと舟くだりの方ですね、鶴岡市に行く方と。残念ながら、バイパスができないわけですが、これができますとずーっときれいな道路で、大変ありがたいのですが。ちょっと前に神社でも、あの土地をなんとかならないかということで、買収みたいなことを考えたこともあったのですが、羽黒町の土地もあるようですけども。要はあそこらへんを情報発信の場所と言いますか、来た人があっちに行く、こっちに行くとかわかるような場所なんじゃないかなと。どっちにいくにしろ、あそこは一番通るような感じがしますので、看板であるとか案内所であるとか様々あるわけですが。それでは、羽黒町に来たときにどこで話を聞けば良いのか、となった時に、今は残念ながら我々もどこにやればいいのかという感じがします。「いでは」さんあたりでは大変機能してくれるのかもしれませんが、前を通らなければ行ってしまいますので、やっぱりあそこらへんがねらい目じゃないかなという気がします。ビジターセンターがありますし、ビジターは今大変なお金をかけて整備をする計画もあるようですし、休暇村もありますし、

ちょっと下れば「いでは」もありますし、本当にこう羽黒の情報の発信、それはその飲み食いも含めてですね、良い場所なんじゃないかなというふうに勝手に思いますので、これからは、あそこをうまく活用すれば、来た人もわかりやすいんじゃないかなという感じがしております。

そのようなことで、正直なところ、ちょっとお金を出すとですね、人はなんぼでも寄せられるんじゃないかと思えます。ただ、寄せた人をどうしていくかということが、今さまざま出てきているんだらうと。そこらへんは、単独ではできないわけですから、地域であるとか、行政であるとか、さまざまな民間の方々とともにですね、受け皿というかたちで、向かうところはこっちにきたらこうだとか、どっさり材料はあるんじゃないかなと思っております。

(五十嵐室長)

祭りの関係ですけれども、神社の花祭りにしても松例祭にしても、その他、無形文化財の高寺八講など、伝統的な様々なお祭りがあるかと思えますが、観光素材としては貴重な存在です。そういった祭を貴重な観光資源として取り組むには、やはり羽黒町観光協会として誘客を図ったり、支援をしたりというよう取り組みなのかなと考えているところです。そのへんで今後祭りを盛り上げるなり、人を呼ぶ、あるいは祭りの説明をする、そういう支援の体制、サポーターを作りながら、口コミで広めていく。そういったことも今後検討していかなければならないと思っているところです。

(庄司 祐子委員)

やっぱり羽黒の場合は特に、お話しの中で季節というのがすごく貴重なことになっていて、例えば本当に羽黒の観光客が昔よりも減っていると聞いているので、増えた方がいいんじゃないかなと思うんですけども。やはりその中で、良くも悪くも宗教ということだから、できることできないことという話しになると、そこでいつも止まってしまうという気がするんですよね。ただ、忙しい時期っていうものが、実は非常に短い時期ですよ。ある時期、一ヶ月か二ヶ月か、せいぜいどんなにすごい宿坊でも三ヶ月ずっと満室というのはないと思うんです。そうすると、一年間を夏のシーズン、冬のシーズンとばつと考えると、映画村もそうだと思うんですけども、たまたま映画村も同じように冬は閉鎖しているわけですよ。そうすると、夏の間だけだから、半年の仕事なわけだし、宿坊とかはそれよりさらに絞った時期であって、やっぱり冬の時期に、それじゃあ、いくら「おくりびと」でそのロケーションが良かったわと言っても、真冬に手向に泊まるというのはなかなか厳しいと思うんです。物理的に。そう考えると、季節というものを少しくールに考えて、ここからここまでの時期がベストシーズンだから、その時期のさらにベストシーズンはここで、そこは宿坊はどうしようもないんだと。でも、もし宿坊の中で、もう少しお客さんに来ていただいて、経営安定をしたいなというニーズがあるとするれば、この時期とこの時期は小

さな部屋がある宿坊があるとしたら、こことここは使えるんだとか、同じように祭りに関しても、もう来ちゃ困るんだよというのがあるとすれば、それは宣伝しないほうが良いと思うし、でも昔に比べれば、アクセスも良くなったから、もっと何千人とか何万人とか来てもらったら、全体が潤うのとか、地域が潤うからということ、少し季節というものを考えながら取り組んでいく、季節を念頭に置いたら話しが見えてくるのかなという感じがしました。

(星野 博委員)

話しを戻しますが、先ほど金野さんの方からお祭りの話をふられまして、林さんからもお話しありましたけども、お祭りの話しで、説明員のことも出ましたけども、松例祭においては、何年か前より説明員なる者、神社のほうから準備していただいて、私の親父もしたことがありますし、いろいろ説明はしていただいております。その前から、我々が先頭に立って、雪灯籠作りをやり始めたということで、近年は、一般のお客さんたちに対して、お祭りに対してのアピールはかなりしております。ただ、その前はですね、年配の方々から伝えられたようにお祭りは氏子のお祭りなので、一般のお客さんは関係ありませんよという言われ方をしてまいりました。がしかし、今はそういったことを言っている場合ではないのかなということで、そういうことを始めたわけなんです。で、地元にも私みたいなあほがいて、神社にも 1 名ややあほがいましたもんで、いろいろ切磋琢磨しながら、こうやってきたわけなんです。そんな中で気付いたのが、例えば今までこう歴史的なものがある、それを年寄りたちは守りなさいよと言われてきましたけども、そのただお祭りを守るために今後どうすればいいのかなと、少子化なり云々というお話も載っていましたが、**OB** もどうのこうのということなんですけども。そのお祭りを守るためには、今の時代に合ったやり方で、例えば綱を引く人間をインターネットで集めてどうのこうのと、そういうやり方もできるわけなんです。で、現在、下町、上町に分かれてやっているものが、下町全部が合併したの、上町も合併するだの、そういうやり方をしながら今後世に残すために、我々が伝えていきたいもの、または残していきたいものを今やっているわけなんです。なので、その観光そのものも、守らなければならないものもあるんだろうけども、やっぱり残すためにはいろんなものに対してお金を使い、いわば既成事実を作ってしまうながら、じゃあ守りましょうよというやり方もあるんだと思うんです。なので、例えば、松例祭において若い人たちが前はジーパンに長靴履いていたものが、今は白のズボンだとか白の地下足袋だとかを履いているわけなんです。そういうものというのは格好から入って、それで格好に見合ったお祭りの仕事をするんだよという責任感を持たせるために、そういう姿をしてもらいました。なので、例えば、高いゴルフクラブを買って、そのクラブに見合った腕が成り立つのかなと。そういうようなものもあると思うので、やはり姿かたちから入るのも大切だと思うので、先ほどの月山道路の話でもないですけども、やはり受け入れるためには、月山道路の整備だとか、そういうすべての格好をカチッとしながら、

責任を持って受け入れましょうという姿も必要ではないのかなど、考えております。

(司会：寒河江会長)

予定の時間となりましたので、今回のテーマの協議は終了したいと思います。ありがとうございました。

## 5 その他

発言なし。

## 6 閉 会 (16時00分) 佐藤次長